

主な出来事

【内政】

・4日付公開書簡にて、ロック・カボレ前国民議会議長(前CDP党首)、サリフ・ディアロ元農業大臣、シモン・コンパオレ前ワガドゥグ市長の有力者3名を含む与党CDP76党員が党事務局長宛てに同党離党の意思を表明した。

・18日、反政府派は首都ワガドゥグを始め、ボボ・デュラツソ、デドゥグ、クドゥグといった当国全土で反政府デモを平和的に実施し、若者を中心に1万数千人が参加した。ワガドゥグにおいては、与党CDPを離党したロック・カボレ、シモン・コンパオレ、ラルレ・ナーバ、及び野党系代表ゼフィリン・ディアブレが参加した。

・25日、CDP離党組が新党決起集会を開催し、ロック・カボレを代表とする「発展のための国民運動(MPP)」が結成され、政策方針、党規約、組織編成等が決定された。

【外政】

・10-11日、コンパオレ大統領は、アビジャンで開催されるECOWAS加盟国元首と日本の安倍総理との首脳会議に出席するため、同地を訪れた。

* 出典は原則としてシドワヤ紙。その他新聞社の記事を引用した場合はその都度注釈をつける。

【内政】

・14日、与党CDP所属の現役国民議会議員が、コンパオレ大統領への支持を再度明確に示すことを目的とした宣言を作成、70名中69名の署名とともに紙面に掲載された。(オブセルバター紙)

・16日、現役の国民議会議員の中から、1名のCDP党員、モシ族の伝統的首長ラルレ・ナーバでもあるディエンドルベオゴ・ヴィクトールが、CDP及び「コンパオレ大統領との平和と発展のための連盟(FEDAP-BC)」からの離脱を表明した。(オブセルバター紙)

・22日、閣議にて大統領は、トバン・モハメド・サネ元駐マリ大使を大統領府官房長に指名した。

・23日、CDPとその友党40数政党は、共和戦線(Front republic)を結成した。

・30日、ジャン・バプティスト・ウエドラオゴ元大統領及び宗教界リーダーは平穏な政治的移行の為の合意を得るため、政権と野党間の調停を行うことを表明した。

【外政】

・25日、ブルキナ・台湾国交再樹立20周年記念(2月2日)に合わせ、馬英九台湾総統が当国を訪問し、首脳会談、記者会見、夕食会を行い、両国の友好関係が確認された。

【社会】

・22日、東部地域のテンダングにて、遊牧民のプル族と農耕民のモシ族の住民間の争いが起きた。農耕民1人が死亡、4人が負傷、84家屋、24の納屋が焼失し、430名が移動を余儀なくされた。ニニャ・ソムダ人権・市民権向上大臣が現場にて両者の和解に立ち会った。